



南部町立南部中学校 学校だより 第8号

千一ム南部中

令和2年 7月31日 (金)

校長 望月和彦

特別な気づきや学びのあった1学期終了

4月6日に始業式が行われ、7日には48名の新入生を迎え全校生徒155名で令和2年度1学期がスタートしました。学級・学年開きを行い、授業が始まったばかりの4月13日には再び臨時休業となってしまいました。2度の休業延長が行われ、5月22日まで合計40日間になる長い臨時休業でした。5月25日に学校を再開することができましたが、授業時数を確保するために夏休みを縮小し、本日7月31日に1学期を終了しました。授業日数は1年生が52日、2・3年生は53日です。昨年度はそれぞれ70日、71日だったので、19日少ない1学期でした。出席簿を調べると1学期の授業日すべてを休まず、遅刻や早退もせず、登校できた生徒は、全校で155人中86人いました。感染症対策



↑ 7/21 3Bの理科の授業

として、37度を超える熱があったり、体調がいつもと違ったりした生徒には、大事をとって学校を休んでもらったり、早退してもらったりするなかで、毎日元気に学校生活を送ることができたことは素晴らしいことです。2学期も全員が安全に元気に学校に登校できるよう願っています。

この1学期は、生徒たちにとって楽しみな行事や活動が中止になったり、思い切りやりたい部活動ができなかったり、大会やコンクールが中止になったり、授業中も話し合い活動や大きな声での発表、合唱や身体接触の多い活動が制限されたり、休み時間は



↑ 7/27 地区総体の賞状伝達

友だちとじゃれあったり、騒いだりすることもはばかれる、辛く悩ましい期間でした。家庭でも多くの生徒や家族の方々も人混みをさけたり、遠くへ出かけることを我慢されたりしたのではないのでしょうか。一日も早く感染症の状況が改善され普通の生活ができるようになることを祈るばかりです。しかし、新聞やテレビなどの報道を見ると、国内や世界でも感染症の状況は決して改善しているとは言えず、いつ回復するのかもわからない状況です。

そうした状況下でも本校の生徒たちは、制限されたルールのなかで、毎日の授業や段階的に開始された部活動等に真面目に取り組み、与えられた条件のなかで学校生活を楽しんでくれたように思います。この1学期、本校の生徒たちや教職員が様々な場面で話しているときに、よく聞かれた言葉に次のようなものがあります。

「今まで当たり前だった日常生活が、どれほどありがたいことだったのかがよくわかった」

「命や健康は何よりも大切なこと」

「自分も大切だけれども、周りの人たちも大切にしなければ」

「今できることをしっかり考えて、できることをきちんと精一杯やろう」 などなど

新型コロナウイルスという禍のなかで、失ったこともたくさんありましたが、自分ばかりでなく、家族、友だち、地域の人々、国内の人々、世界の人々が困難な状況に立ち向かっている状況を見たり、聞いたりするなかで、私たち大人はもちろん、生徒たち一人ひとりも、普段気にもしなかったことに気づき、真剣に考え、大切なことを学んでいるように思います。

明日8月1日から23日まで23日間の夏休みになります。昨年度より11日短い夏休みなの

で、宿題も例年よりかなり少なくなっています。県総体や部活動、学年の学習会や輝城祭の取り組みなどもありますので、計画をしっかりと立てて充実した夏休みにして欲しいと思います。

第10回「輝城祭」に向けて

新型コロナウイルスのために「第10回輝城祭」についても、実施の可否、内容の精選または変更や縮小、参観者の制限など、様々な検討を行ってきました。今現在のところ①1. 5日で実施してきた内容を1日に縮小すること。②内容については生徒の健康や安全と教育的価値を検討して精選すること。③生徒や参観者の安全を考えて参観者を制限すること。という3つの条件で実施する方向です。今後も、感染症の状況や近隣の学校の情報を注視しながら、町や県の教育委員会等の指導を仰ぎながら、内容の変更の可能性も残しつつ準備を進めていきます。



↑ 7/21 代表委員会

7月21日と22日の生徒会代表委員会の中で、第10回輝城祭の大まかな内容とテーマが決定



↑ 7/27 輝城祭決起集会

しました。輝城祭の目標は生徒会目標と同じ「自分と仲間の幸せを追求できる学校」。内容は、各学年の学年発表、吹奏楽部と美術文芸部の発表、体育の部、開閉祭式です。体育館の窓や暗幕は開放したままで、全校合唱・学年展示・縦割り競技はなし、取り組み時間も例年の3分の2程度にするなど、これまでの輝城祭とは異なる輝城祭になります。そして、生徒会事務局の生徒たちが知恵を絞って掲げた今年度の輝城祭テーマは「だからこそ」。コロナのために様々な制限がかかり、今まで通りにできない今年度だからこそ。節目となる第10回の輝城祭だからこそ。3年生にとっては最後の輝城祭だからこそ。生徒一人ひとりや学級・学年などの集団に「・・・だからこそ・・・」の前後の「・・・」を考えてもらいたいという思いが込められているそうです。今年度にふさわしいテーマだと私も思いました。155人の生徒たちにとって心に残る輝城祭が実施できることを願っています。

目となる第10回の輝城祭だからこそ。3年生にとっては最後の輝城祭だからこそ。生徒一人ひとりや学級・学年などの集団に「・・・だからこそ・・・」の前後の「・・・」を考えてもらいたいという思いが込められているそうです。今年度にふさわしいテーマだと私も思いました。155人の生徒たちにとって心に残る輝城祭が実施できることを願っています。

租税教室

7月27日、3年生を対象に租税教室を行いました。講師には甲府税務署の島崎さんと加藤さんが来てくださり、3A、3Bの教室でそれぞれ1時間の授業を行ってくれました。租税の目的やしくみ、中学生との関わりなどをわかりやすく説明してくれました。社会科で学習する税の学習の動機付けになりました。



NIEの時間

NIE (Newspaper In Education) とは、新聞を教育活動に取り入れ、生徒の社会への関心を高め、情報を読み解く力、考える力、問題を解決する力を育てようとする取り組みのことです。7月16日と27日の朝読書の時間、報道委員会が、新聞記事を使ったワークシートを用意し、全校生徒が新聞記事の内容を読み取ったり、自分の考えを書いたりする活動を行いました。

